

# 決 算 報 告 書

自 平成 25 年 4 月 1 日  
至 平成 26 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610  
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3

# 平成25年度事業報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

## 1.事業総括

平成25年度も、団体にとって大きな変化の年となりました。

前年度に国の補助事業で立ち上げた「間伐材工房元樹」が出来た事により、間伐材利活用の可能性が大きく広がったのと同時に、工房運営にかかる家賃やスタッフ人件費等の固定費が新たに発生し、今迄の様なボランティア色の濃い事業だけでは団体を維持する事が出来ない状況で活動がスタートしました。

まず、24年度に整備した本格的な木材加工施設である「間伐材工房元樹」を最大限活用する事を念頭に置き、「ウッドブロック(木製積木)」の普及を目指し、栗原市・大崎市・登米市の拠点地域の他、仙台市・富谷町・大衡村・名取市・利府町・石巻市等の幼稚園や保育園を個別に回り普及活動を展開しました。訪問した施設数は100カ所以上、その内導入施設は約50カ所100セット(5万枚)以上のブロックが子供達の知育玩具として使われるようになりました。ガードも固くアポイントもない飛込みに近い形での普及活動は、門前払いも多々ありましたが、自然の木で出来たものを子供達に与えたいとのニーズの高さの反面、そのコスト高が障害となり実現できてない事が判ったのは大きな収穫でした。ブロックを導入してくれた複数の施設からは、その後ブロック以外の間伐材加工品の製作相談やアイデアを戴き、新たな商品開発のキッカケとなり、25年度中のテスト販売を含めた間伐材加工品の売り上げは200万円を超える迄に至りました。当初計画していた南三陸地域での「復興絵馬」を核としたプロジェクトは、連携団体との関係や復興グッズ自体の需用減等諸処の事業により頓挫してしまいましたが、試作品製作を繰り返す等の作業がその後の間伐材加工品の製作に大きくプラスする事が出来たと確信しています。

二つ目の変化は、25年度からの林野庁新規補助事業「森林・山村多面的機能発揮対策」の採択が決まり、今迄ボランティアに近い形で実施していた森林保全整備作業が、労務費や必要経費が賄える収益(非営利)事業に変わった事です。整備過程で出た間伐材も工房で活用でき、森の循環の復活に向けた追い風になります。3年間の継続事業であり搬出迄の経費が補助される為、今迄コストをかけて調達していた間伐材が安定的に確保できると同時に、それ以外の活用も充分図れる素地が整いました。念願であった「森林整備(伐採)→集材・搬出→製材→木材加工→製品化」という森の循環に向けた一連の流れを担える体制が整いました。拠点である栗原地域の他南三陸地域の複数の個人山主との協定に基づき長期的なフィールド確保にも繋がりました。また、2カ所の新たな広大なフィールド(約20ha)出の作業を基に、NPOによる林業分野での総合化事業(六次産業化：生産・加工・販売)への計画申請も本年度ギリギリで申請しました。間伐材加工品の開発～販売の他、天然乾燥材の素材生産をNPOとして全国初の試みで実施し、その普及や加工施設として間伐材で作る加工場とモデルハウスを整備するという内容です。

薪ストーブの本年度の新規導入は3台に停まりましたが、機能やデザインも少しづつグレードアップし、導入した方々からも高い評価を頂いています。本年度の地球環境基金助成事業において、「結いで建てる自然エネルギー導入復興モデル住宅」への導入は見送られましたが、助成活動自体は別な新たな形で成果に結びつき、その先への繋がりも出てきました。

最後に、本年度もHPの更新は出来ませんでした。反面、地道にアナログでの活動が功を奏し、様々な組織や個人とのネットワークは広がっています。設立当初掲げた目標に向かい着実に前進している事も事実であり、全ての活動が繋がっていると確信しています。情報発信の遅延や活動参加者の不足は大きな課題ですが、活動を確実にこなし会員や関係団体とのコミュニケーションを図りながら、楽しく安全に充実した活動が出来る様に会の運営をしていきたいと考えております。今後とも会員皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。総括と致します。